INTERVIEW

新潟県柏崎市
新規就農者インタビュー



地域おこし協力隊

神谷　和郎（あろう）さん

北海道旭川市出身。36歳。
中通地区での新規就農を
目指し、研修中。

食を支える担い手へ

神谷さんは、柏崎市での独立就農を目指して活動する地域おこし協力隊です。これまでさまざまな仕事を経験し、海外での生活も経験する中で、健康の源である「食」と、それを支える「農業」に魅力を感じ、就農を志しました。

令和８年１０月１日に地域おこし協力隊として着任。現在は、中通（曽地）地域の次世代の担い手となることを目指し、株式会社大日で農業研修に励んでいます。

地域の一員として

神谷隊員は、地域の人たちに支えてもらいながら暮らしています。

「自家用の家庭菜園を始めたときには、近所で畑を営む方が声をかけてくれ、畑の作り方を教えてくれたり、農機具を貸してくれたりしました。採れたての野菜をお裾分けしてもらうこともあります。今では、畑に行くたびに地域の皆さんと挨拶を交わし、自然に会話を楽しめる関係になりました。」

そのほかにも地域の活動に参加する中で、柏崎市には人と人が協力し合う温かさがあると感じているそうです。「夫婦で、曽地を選んでよかったねと話しています。」と、神谷隊員は笑顔で話します。

食卓から広げる農の魅力

元調理師の妻と一緒に、マコモタケを使ったアレンジレシピの考案にも取り組んでいます。農業と食の経験を生かして生み出したレシピは、先輩社員からも好評です。

レシピは、株式会社大日のインスタグラムで公開しています。

マコモタケの新たな魅力を発信しながら、農業と食を身近に感じてもらうきっかけづくりにも挑戦しています。

就農・移住を考えている方へ

神谷隊員から、就農・移住を考えている方へのメッセージです。

「最初は、生活環境の変化、移住するリスク、自分の未開拓の分野の農業を独立就農という形で向き合うことに不安も感じていました。ただ、どんな世界でも一歩踏み込んでみないと分からないことが多いはず。僕の場合は、今回本当に良いご縁に恵まれたと思っています。

もし、挑戦しない事で人生後悔しそうだなと思うようであれば、地域おこし協力隊や、地域の就農イベントなどを頼るのも１つ視野に入れてみてはいかがでしょうか？応援してます！」



新潟県柏崎市農林水産課
2026.11